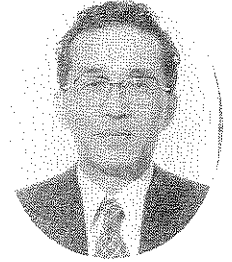


-----  
PREFACE  
-----

日本表面科学会の発展のために



川村和郎

物質表面の性質が内部のそれと当然異なるであろうことは、随分古くから考えられ、我々の経験の中でもこのことを感得した事例は枚挙に暇がない。しかし最近のように新しい分析装置・測定機器の開発により明確にまた定量的にこのことが実証されるようになると、表面現象の特殊性にあらためて目を奪われる。世は『軽薄短小』とか『機能性』が喧伝される時代だが、表面科学は学問的にも応用面でも非常に魅力ある新領域である。その意味で本学会に対する期待は大きく、一層の発展が期待されるゆえんである。

表面科学はその広汎な学際性が特徴であるだけに、学会活動には幾多の考えるべき点がある。すなわち会員はそれぞれ独自の専門を持ち、それぞれの学会で活動しておられるから、表面科学会の活動に期待するものは、表面の状態・現象のより高度の解析・理解による共通認識と、基礎段階も含め応用に至る過程での表面科学の共通活用である。この共通認識と活用が出来る場になることが重要であり、それには各分野の表面科学に携わる研究者・技術者の多数の参加による交流・討論・発表が行われなければならない。逆に言えば多くの会員が参加して、満足して戴ける企画と活動がなければならないということである。

日本表面科学会も発足以来3年を経過し、基礎固めを終わり、いよいよ発展の時期にさしかかったと言える。この機会に関係者全員が積極的に会員の輪を広げる運動を展開すると同時に、基礎的なものみに片寄らず応用とのバランスを考えた上で、会誌の充実はもちろん種々の事業を効果的に進めて行くべきであると思う。幸いにして将来計画委員会が設置され活動を開始したと聞いているので、これからの活躍を期待したい。先にも触れたように分野の異なる人達の集まりである以上、いろいろの見解や意見が出て来るのは当然であり、要は会員みんなが気軽に参加し意見を出し合い交流し合える雰囲気と場を作ってゆくことが大切のように思う。

考えるままに所信を述べさせて戴いたが、日本表面科学会の発展のために、いささかでも御役に立ちたいものと思っている次第である。

(新日本製鉄(株)第一技術研究所)